

2025. 5.12

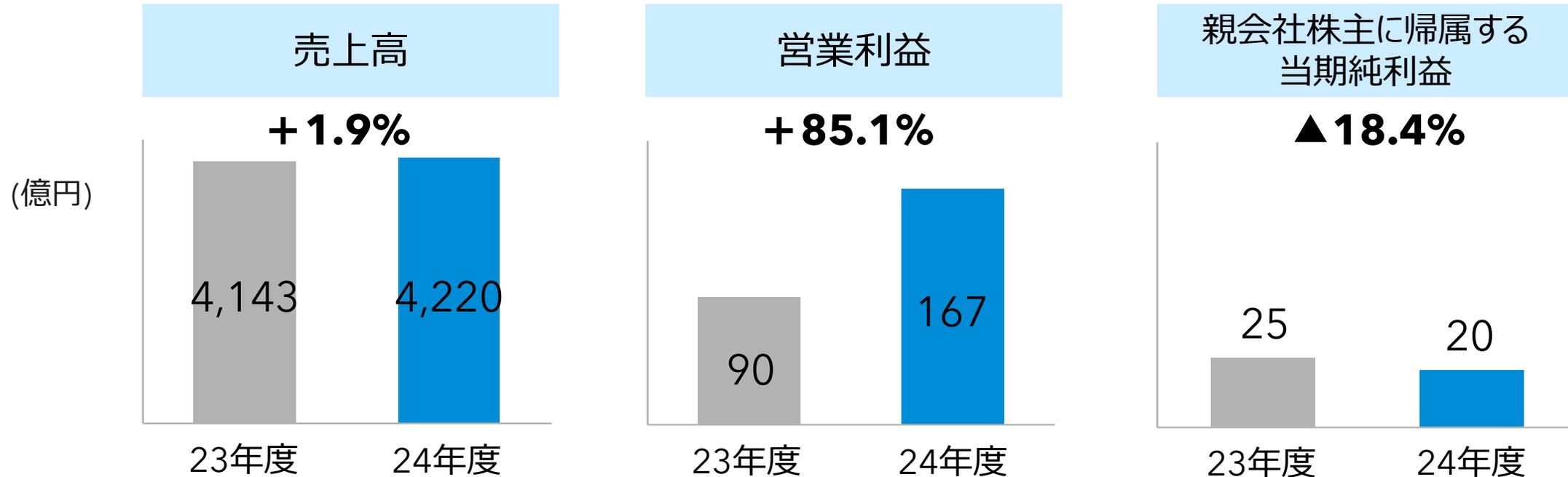
TOYOBO
Beyond Horizons

2024年度決算説明

東洋紡株式会社

2025年3月期 通期実績

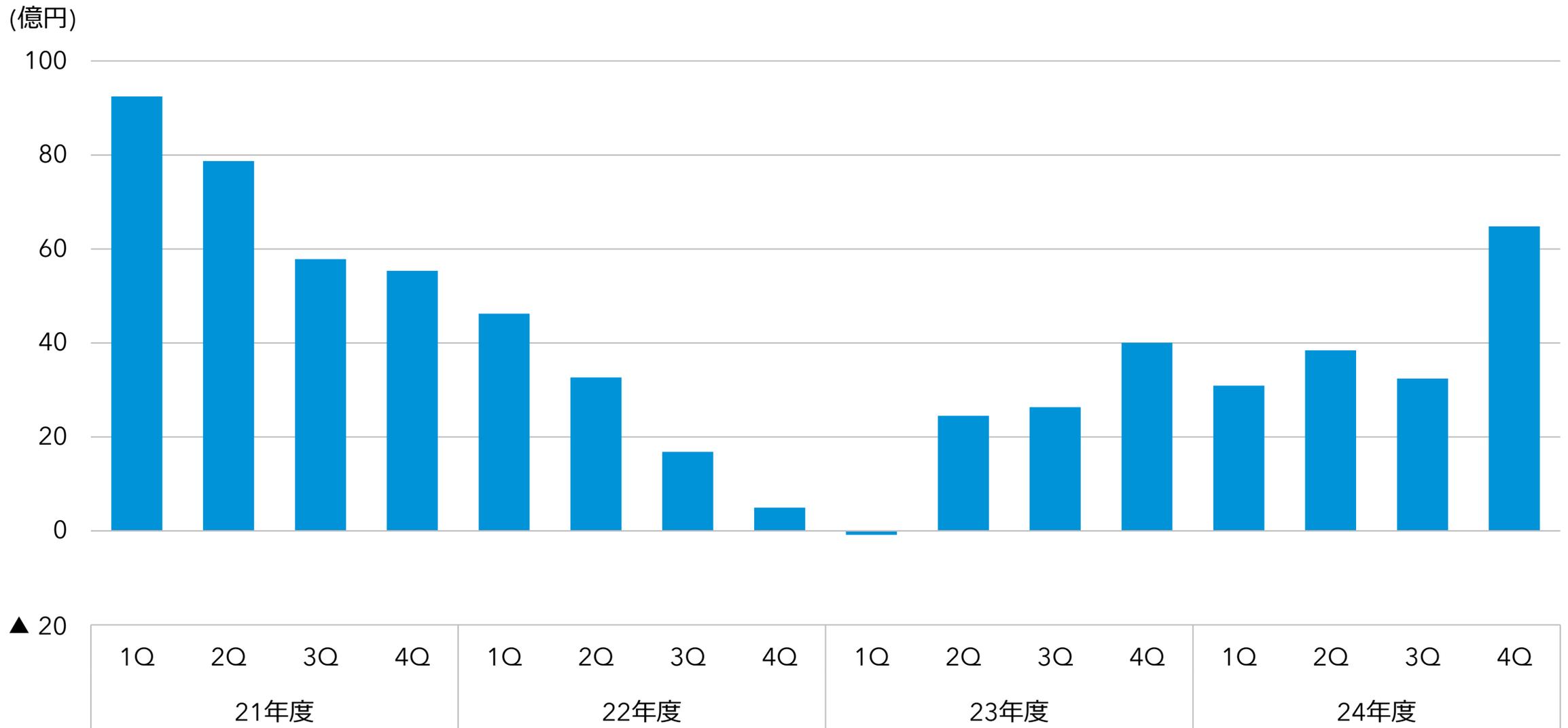
工業用フィルム、環境・機能材が堅調に推移し、要改善事業の収益性改善により、営業利益は増益。当期純利益は、為替影響、固定資産処分損、非支配株主利益等により 20 億円に留まる



2026年3月期 通期予想

包装用フィルムをはじめ要改善事業の収益改善と、ライフサイエンスなど成長投資の効果により、営業利益 210 億円、当期純利益 45 億円を予想

(参考) 四半期別営業利益推移



2024年度の事業環境（期初想定との差異）

セグメント	事業	期初想定	2024年度 実績	
			対想定*	
フィルム	包装用	在庫調整を終え、緩やかに回復へ	－	在庫調整を終え、緩やかに回復
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは前年度並みの需要	－	需要堅調
		MLCCは年度後半から需要回復	▲	年度を通じて徐々に拡大も想定ペースを下回る
ライフサイエンス	バイオ	生化学診断薬用酵素は需要堅調	－	需要堅調
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は堅調に推移	－	需要堅調
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車生産は堅調に推移	▲	北中米向けは堅調も、アジア向けで減速
		電子材料用途の需要回復	－	需要回復
	環境・ファイバー	VOC回収装置の需要堅調	▲	EV化減速の影響あり
		不織布マテリアルの厳しい競争環境は継続	－	厳しい競争環境は継続
機能繊維・商事	エアバッグ	自動車生産は堅調に推移	▲	北米向けは堅調も、アジア向けで減速
共通		国産ナフサは高止まり、石炭価格は落ち着く	▲	国産ナフサ価格は高止まり（製品価格の改定で対応）

* 期初想定に対し、○：改善・拡大、－：想定通り、▲：悪化・減少 4

(億円)

	22年度	23年度	24年度	増減		直近予想 (25/02)
				金額	率	
売上高	3,999	4,143	4,220	+78	+1.9%	4,350
売上総利益	850	880	971	+91	+10.3%	-
営業利益	101	90	167	+77	+85.1%	170
(率)	2.5%	2.2%	3.9%	-	-	3.9%
営業外損益	▲ 35	▲ 20	▲ 61	▲ 40	-	-
経常利益	66	70	106	+36	+52.1%	115
特別損益	▲ 60	▲ 14	▲ 34	▲ 20	-	▲ 40
非支配株主に帰属する当期純利益 (控除)	▲ 2	11	32	+21	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	▲ 7	25	20	▲ 5	▲ 18.4%	26
EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small>	291	288	394	+105	+36.6%	400
EPS (円)	▲ 7.4	27.9	22.7	-	-	29.5
ROE* <small>* 当期純利益 ÷ 期首・期末平均自己資本</small>	-	1.3%	1.0%	-	-	-
ROIC* <small>* NOPAT ÷ (有利子負債 + 純資産)</small>	1.7%	1.3%	2.3%	-	-	-

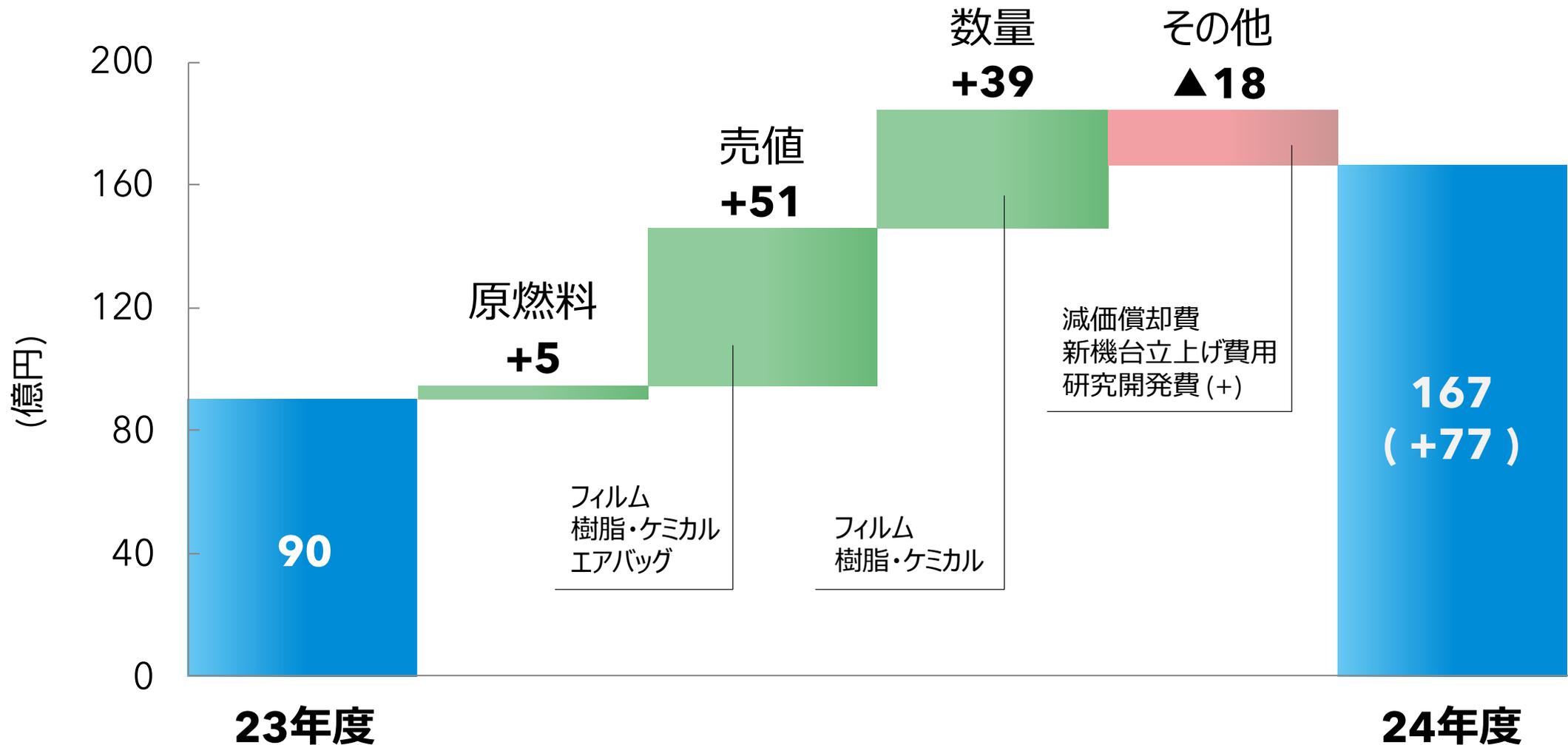
■ 配当は、一株あたり 40 円 (予定)

営業外損益・特別損益

営業外損益 内訳		(億円)		
		23年度	24年度	増減
為替差益		13	-	▲ 13
受取補償金		0	6	+6
その他		24	26	+2
営業外収益 計		37	32	▲ 5
支払利息		14	22	+8
為替差損		-	7	+7
その他		44	64	+20
営業外費用 計		57	92	+35
営業外損益 計		▲ 20	▲ 61	▲ 40

特別損益 内訳		(億円)		
		23年度	24年度	増減
固定資産売却益		-	7	+7
関係会社株式売却益		-	15	+15
投資有価証券売却益		33	1	▲ 32
特別利益 計		33	23	▲ 10
減損損失		8	19	+11
固定資産処分損		35	37	+2
その他		4	1	▲ 3
特別損失 計		47	58	+11
特別損益 計		▲ 14	▲ 34	▲ 20

営業利益の増減要因



	22年度 通期	23年度			24年度		
		上	下	通期	上	下	通期
為替レート (円/US\$)	135	141	148	145	152	152	152
国産ナフサ (千円/kl)	77	65	73	69	78	74	76

		(B)	(A)	(億円)
	23/3末	24/3末	25/3末	増減(A)-(B)
総資産	5,889	6,070	6,178	+108
現預金	607	338	286	▲ 52
棚卸資産	1,219	1,220	1,190	▲ 30
有形固定資産	2,402	2,815	2,965	+150
純資産	2,214	2,301	2,320	+20
自己資本	1,896	1,970	1,953	▲ 17
うち利益剰余金	705	703	690	▲ 13
非支配株主持分	318	331	367	+37
有利子負債	2,294	2,492	2,679	+186
D/E レシオ	1.21	1.26	1.37	-
D/E レシオ (資本性調整後) ^{*1}	-	-	1.15	-
Net Debt / EBITDA倍率 ^{*2}	5.8	7.5	6.1	-

*1 劣後ローンおよび劣後債資本性調整後のD/Eレシオ

*2 (有利子負債-現預金) <期末> / EBITDA

(億円)

	23年度	24年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	216	301	+85
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 588	▲ 464	+124
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 372	▲ 163	+209
財務活動によるキャッシュ・フロー	83	105	+22
その他	20	▲ 1	▲ 21
現金及び現金同等物の増減額	▲ 269	▲ 59	+210
現金及び現金同等物の期末残高	333	274	▲ 59
減価償却費	198	227	+29
設備投資	616	432	▲ 184
研究開発費	153	143	▲ 10

■ 設備投資 セラコン用離型フィルム新機台、バイオ工場リニューアル、重合設備更新

決算サマリー | セグメント別

TOYOBO

(億円)

	売上高		営業利益			直近予想 (25/02)
	23年度	24年度	23年度	24年度	増減	
フィルム	1,565	1,668	27	69	+42	65
ライフサイエンス	346	343	44	20	▲ 24	25
環境・機能材	1,153	1,108	47	80	+33	80
機能繊維・商事	957	981	▲ 10	5	+16	8
不動産・その他	122	120	30	26	▲ 5	27
消去・全社	-	-	▲ 48	▲ 33	+14	▲ 35
合計	4,143	4,220	90	167	+77	170

(参考) 四半期別営業利益推移 (セグメント別)

(億円)

	23 年度				24 年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
フィルム	12	2	1	12	15	15	8	31
ライフサイエンス	14	10	11	10	4	5	6	5
環境・機能材	▲ 7	10	26	17	13	21	23	23
機能繊維・商事	▲ 7	▲ 1	▲ 7	5	2	▲ 1	▲ 0	5
不動産・その他	4	10	7	9	5	7	6	8
消去・全社	▲ 17	▲ 7	▲ 12	▲ 12	▲ 7	▲ 9	▲ 10	▲ 7
合計	▲ 1	24	26	40	31	38	32	65

セグメント別 主なアクションプランと結果

セグメント	アクション（2024年5月時点での計画）	結果*
フィルム	<ul style="list-style-type: none"> ■ 包装用フィルムの収益性改善と工業用フィルムの更なる拡大 <ul style="list-style-type: none"> 包装用フィルム：一層の価格改定。新機台・新製品の本格立上げ、生産体制見直し セラコン用離型フィルム：市況回復に合わせ、顧客の増産体制に対応。新機台立上げ 液晶偏光子保護フィルム：顧客の増産体制に対応 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ ▲ ○
ライフサイエンス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新ラインの確実な立上げと成長策実行 <ul style="list-style-type: none"> バイオ：生化学診断薬用原料酵素拡販。リニューアル増産設備立上げ メディカル：人工腎臓用中空糸膜の一貫生産工場立上げ 急性血液浄化膜、プロセス膜、バイオマテリアルへの展開 医薬品製造受託：GMP体制維持。新規受注 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ▲ ○ ○
環境・機能材	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東洋紡エムシー（株）：成長策の成果実現、不織布マテリアルの収益性改善 <ul style="list-style-type: none"> 環境ソリューション：LIBS*1 向けVOC回収装置の海外販売拡大。 FO*2・BC*3 膜の新規案件獲得 工業用接着剤：環境対応型製品拡販、海外拡販、新ライン立上げ エンジニアリングプラスチック：品質保証体制の確立。数量拡大と一層の価格改定 不織布マテリアル：国内生産体制の見直し、外部生産委託の拡大、開発品の強化・推進 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ ○ ▲ ○ ○
機能繊維・商事	<ul style="list-style-type: none"> ■ 要改善事業の対策実行 <ul style="list-style-type: none"> エアバッグ用基布：収益性改善のロードマップ実行 衣料繊維：資産効率改善の追求 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○

*1 リチウムイオン電池セパレータ *2 Forward Osmosis *3 Brine Concentration

* ○：計画通り、▲：遅れ

(億円)

	23年度			24年度			増減		直近予想 (25/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	781	785	1,565	828	840	1,668	+103	+6.6%	1,700
営業利益	14	13	27	30	39	69	+42	+157.4%	65
(率)	1.8%	1.6%	1.7%	3.6%	4.6%	4.1%	-	-	3.8%
EBITDA	56	60	116	78	88	166	+50	+43.1%	-

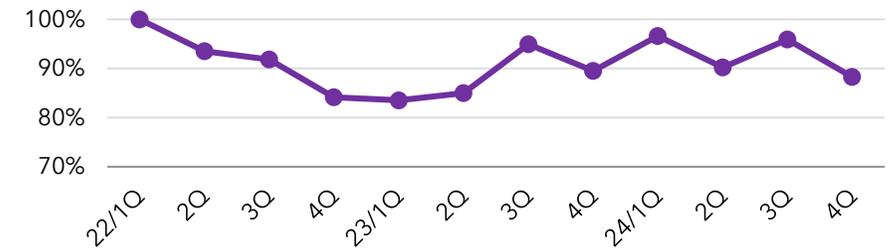
包装用フィルム

- 新製品開発費用などコスト上昇影響あるも、荷動きの回復に加え、製品価格の改定を進め、収益性は改善

工業用フィルム

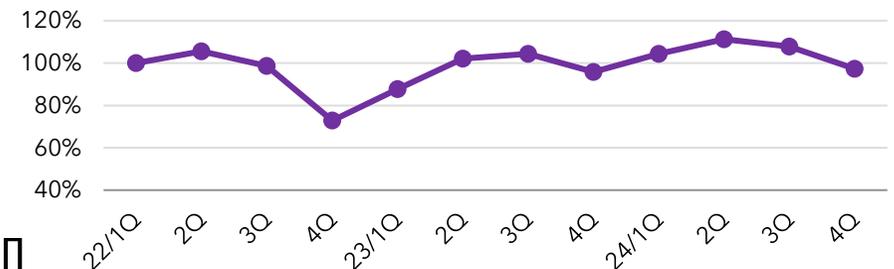
- 液晶偏光子保護フィルムは、堅調に推移
- セラミックコンデンサ用離型フィルムは、AIサーバー向け等の販売拡大も、新機台の立上げ費用が増加

食品包装用OPPフィルム国内市場 出荷実績 (22/1Q:100%)



出所：日本ポリプロピレンフィルム工業会・会員出荷統計をもとに当社作成

日本からのMLCC輸出実績 (22/1Q:100%)



出所：財務省貿易統計をもとに当社作成

(億円)

	23年度			24年度			増減		直近予想 (25/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	166	180	346	172	171	343	▲ 2	▲ 0.6%	360
営業利益	24	20	44	9	11	20	▲ 24	▲ 54.7%	25
(率)	14.5%	11.3%	12.8%	5.3%	6.5%	5.9%	-	-	6.9%
EBITDA	34	31	66	25	28	53	▲ 13	▲ 19.8%	-

バイオ

- 診断薬用原料酵素は、国内外ともに需要堅調。
生産能力増強に伴う費用増加に加え、一時的な生産性低下の影響あり

メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜は、販売が堅調に推移も、
新工場の立上げやインフラ関連投資に伴う費用が増加

医薬

- 米国FDAからの Warning Letter 解除（2023年7月）、製品価格の改定が進捗

(億円)

	23年度			24年度			増減		直近予想 (25/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	525	628	1,153	552	556	1,108	▲ 45	▲ 3.9%	1,150
営業利益	4	43	47	34	46	80	+33	+70.6%	80
(率)	0.7%	6.8%	4.0%	6.1%	8.3%	7.2%	-	-	7.0%
EBITDA	21	63	84	56	69	125	+40	+47.8%	-

樹脂・ケミカル

- エンジニアリングプラスチックは、製品価格の改定が進捗。北中米向け自動車用途の販売が拡大
- 光機能材料（感光性樹脂版）は、中国や東南アジア向けを中心に販売が増加

環境・ファイバー

- 環境ソリューションは、リチウムを濃縮回収するためのBC*1膜装置の販売が寄与。
EV市場減速の影響により、LIBS*2製造工程で使用されるVOC回収装置の出荷が減少
- 高機能ファイバーは、海外向け販売が堅調に推移
- 不織布マテリアルは、国内生産体制の見直しが進み、収益性が改善

*1 Brine Concentration

*2 リチウムイオン電池セパレーター

(億円)

	23年度			24年度			増減		直近予想 (25/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	457	500	957	479	501	981	+24	+2.5%	1,020
営業利益	▲ 9	▲ 2	▲ 10	1	4	5	+16	-	8
(率)	-	-	-	0.2%	0.9%	0.6%	-	-	0.8%
EBITDA	4	11	15	14	18	31	+16	+109.6%	-

衣料繊維

- 中東向け特化生地は、強い需要に牽引され販売が増加。為替影響により輸出採算が好転
- 国内生産拠点の集約などの構造改革が進展

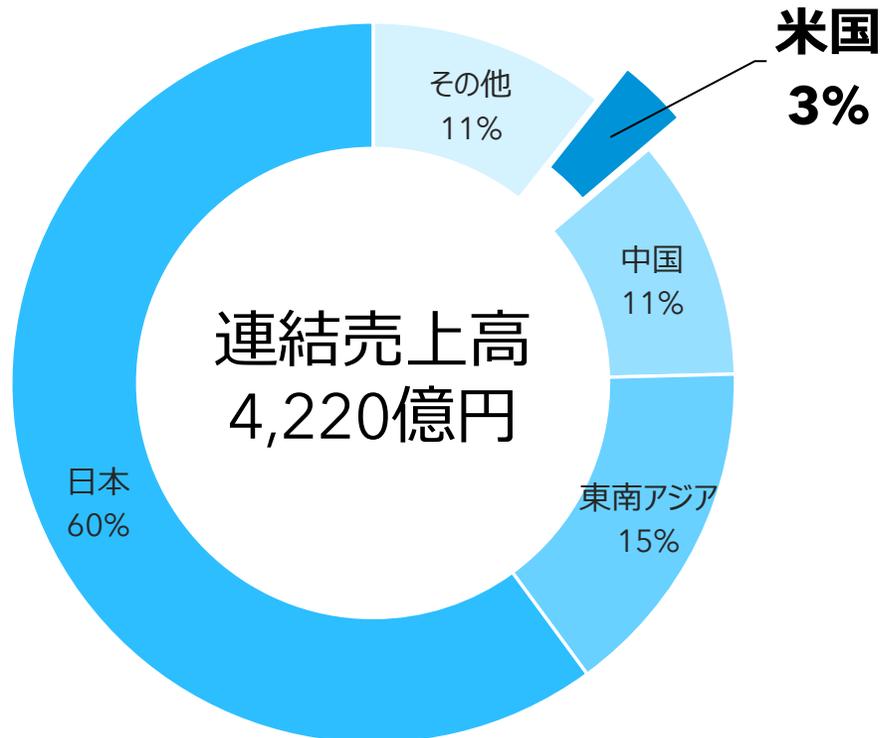
エアバッグ用基布

- 製品価格の改定が進み、収益性が改善

2025年度の事業環境見通し

セグメント	事業	前年度の状況（2024年度）	見通し（2025年度） 米国関税影響の織り込み無し
フィルム	包装用	在庫調整を終え、緩やかに回復	前年度並みの需要
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは需要堅調	前年度並みの需要
		MLCCは年度を通じて徐々に拡大も想定ペースを下回る	AIサーバー向けを中心に需要拡大
ライフサイエンス	バイオ	生化学診断薬用酵素は需要堅調	需要堅調
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は需要堅調	需要堅調
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車用途は北中米向けは堅調も、アジア向けで減速	前年度並みの需要
		電子材料用途の需要回復	需要回復基調
	環境・ファイバー	VOC回収装置はEV化減速の影響あり	EV化減速の影響継続
		不織布マテリアルの厳しい競争環境は継続	厳しい競争環境は継続
機能繊維・商事	エアバッグ	北米向けは堅調も、アジア向けで減速	前年度並みの需要
共通		国産ナフサ価格は高止まり（製品価格の改定で対応）	国産ナフサ価格は低下傾向

2024年度 地域別売上高比率*



*顧客の所在地を基礎として分類

- 2025年度業績見直しには相互関税の影響（直接・間接）は織り込んでいない
- 相互関税の影響を受ける可能性のある米国売上高は約3%（顧客の所在地ベース）

米国における主な事業は以下の通り

開示セグメント	事業
ライフサイエンス	バイオ
環境・機能材	樹脂・ケミカル (エンジニアリングプラスチックほか)
	環境・ファイバー

- 今後、業績に大きな影響をあたえることが明らかになった場合は、速やかに開示します

2025年度 業績見通し

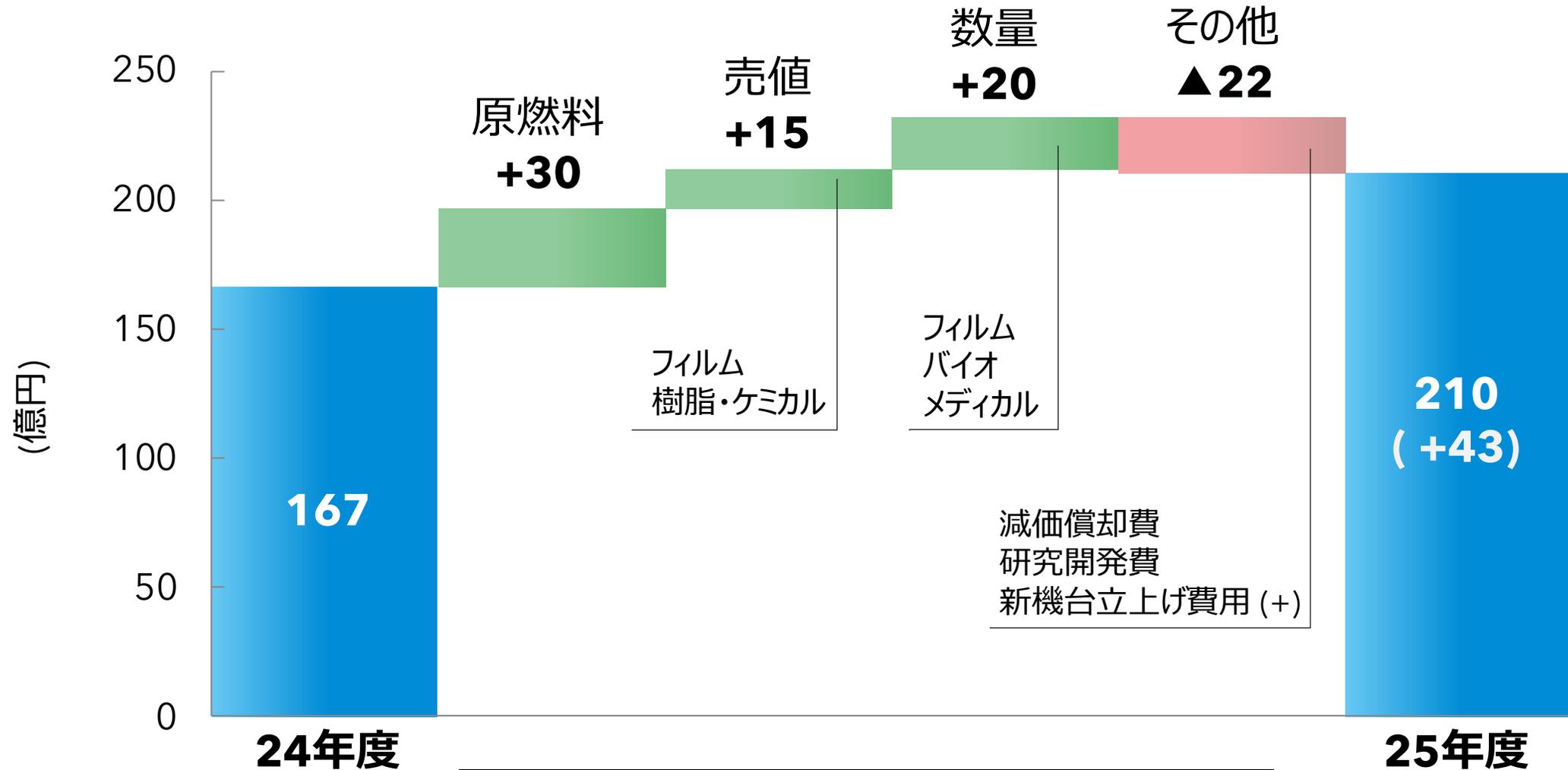
包装用フィルムをはじめ要改善事業の収益改善と、ライフサイエンスなど成長投資の効果により、
営業利益 210 億円、当期純利益 45 億円を予想

(億円)

	24年度	25年度	増減	
	実績	見通し	金額	率
売上高	4,220	4,400	+180	+4.3%
営業利益	167	210	+43	+26.1%
(率)	3.9%	4.8%	-	-
経常利益	106	155	+49	+46.4%
特別損益	▲ 34	▲ 45	▲ 11	-
親会社株主に帰属する当期純利益	20	45	+25	+124.6%
EBITDA	394	460	+66	+16.9%
EPS (円)	22.7	51.0	-	-
減価償却費	227	250	+23	+10.1%
設備投資	432	350	▲ 82	▲ 18.9%
研究開発費	143	150	+7	+5.2%

- 設備投資 液晶偏光子保護フィルム生産能力増強
- 配当は、一株あたり 40 円 (予想)

営業利益の増減要因



	24年度	25年度
為替レート (円/US\$)	152	140
国産ナフサ (千円/kl)	76	70

セグメント別見通し

TOYOBO

(億円)

売上高	24年度 実績			25年度 見通し			通期 増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	
フィルム	828	840	1,668	900	850	1,750	+82
ライフサイエンス	172	171	343	200	210	410	+67
環境・機能材	552	556	1,108	550	620	1,170	+62
機能繊維・商事	479	501	981	450	500	950	▲ 31
不動産・その他	60	60	120	60	60	120	+0
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-
合計	2,092	2,129	4,220	2,160	2,240	4,400	+180

営業利益	24年度 実績			25年度 見通し			通期 増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	
フィルム	30	39	69	43	37	80	+11
ライフサイエンス	9	11	20	12	28	40	+20
環境・機能材	34	46	80	33	57	90	+10
機能繊維・商事	1	4	5	3	10	13	+8
不動産・その他	12	14	26	11	11	22	▲ 4
消去・全社	▲ 16	▲ 17	▲ 33	▲ 17	▲ 18	▲ 35	▲ 2
合計	69	97	167	85	125	210	+43

未来をつくるために稼ぐ力を取り戻す

1. 安全・防災、品質、コンプライアンスの徹底（大前提）
2. 価値に見合ったプライシングの徹底
3. 要改善事業（低収益・赤字セグメント）対策
4. 投資の確実な回収と新の創出
5. 投資・経費の絞り込み、コストダウン
6. 使用資本の圧縮（資産効率改善）

補足

セグメント別情報

TOYOBO

(億円)

売上高	23 年度					24 年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
フィルム	390	391	393	391	1,565	421	407	421	420	1,668
ライフサイエンス	81	84	87	93	346	81	91	85	86	343
環境・機能材	250	276	336	292	1,153	281	272	283	273	1,108
機能繊維・商事	222	235	232	268	957	240	239	233	268	981
不動産・その他	28	38	30	26	122	29	31	29	32	120
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	971	1,024	1,079	1,069	4,143	1,052	1,040	1,051	1,078	4,220

営業利益	23 年度					24 年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
フィルム	12	2	1	12	27	15	15	8	31	69
ライフサイエンス	14	10	11	10	44	4	5	6	5	20
環境・機能材	▲ 7	10	26	17	47	13	21	23	23	80
機能繊維・商事	▲ 7	▲ 1	▲ 7	5	▲ 10	2	▲ 1	▲ 0	5	5
不動産・その他	4	10	7	9	30	5	7	6	8	26
消去・全社	▲ 17	▲ 7	▲ 12	▲ 12	▲ 48	▲ 7	▲ 9	▲ 10	▲ 7	▲ 33
合計	▲ 1	24	26	40	90	31	38	32	65	167

主な指標の推移

TOYOBO

(億円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	実績						見通し
売上高	3,396	3,374	3,757	3,999	4,143	4,220	4,400
営業利益	228	267	284	101	90	167	210
(率)	6.7%	7.9%	7.6%	2.5%	2.2%	3.9%	4.8%
EBITDA ^{*1}	398	458	485	291	288	394	460
EPS (円)	155.1	47.3	144.8	▲ 7.4	27.9	22.7	51.0
ROE ^{*2}	7.8%	2.3%	6.8%	-	1.3%	1.0%	2.3%
ROIC ^{*3}	4.5%	5.0%	5.1%	1.7%	1.3%	2.3%	2.8%
減価償却費	170	191	201	190	198	227	250
設備投資	364	233	336	427	616	432	350
研究開発費	117	127	138	141	153	143	150
有利子負債	1,751	1,870	1,912	2,294	2,492	2,679	-
D/Eレシオ	0.98	1.01	0.98	1.21	1.26	1.37	1.40
D/Eレシオ (資本性調整後) ^{*4}	0.87	0.89	0.87	-	-	1.15	1.20
Net Debt / EBITDA倍率 ^{*5}	3.8	3.3	3.4	5.8	7.5	6.1	5.0

*1 営業利益+減価償却費 (のれんを含む)

*2 当期純利益÷期首・期末平均自己資本

*3 NOPAT÷(有利子負債+純資産)

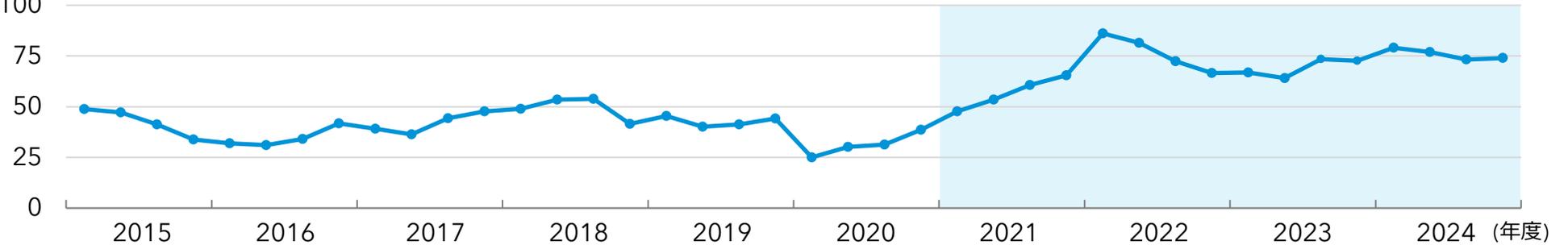
*4 劣後ローンおよび劣後債資本性調整後のD/Eレシオ

*5 (有利子負債-現預金)÷<期末> EBITDA

原燃料価格高騰に対する価格改定

■ 国産ナフサ価格

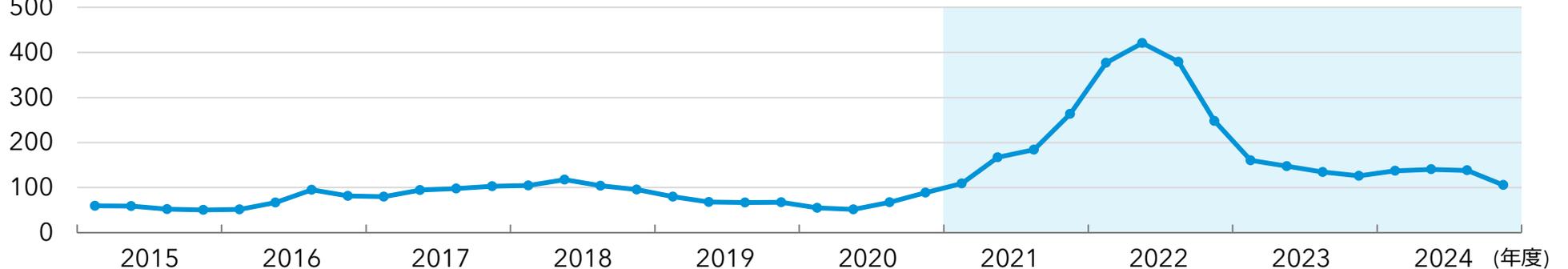
(千円/kl) 100



■ 石炭価格

(豪州一般炭市況価格)

(\$/t) 500



■ 当社「原燃料」「売値」影響

(前年度比増減)

(億円)

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
原燃料 (A)	+41	▲ 37	▲ 45	+29	+56	▲ 112	▲ 170	▲ 10	+5	+30
売値 (B)	▲ 25	+16	+12	▲ 5	▲ 38	+47	+119	+44	+51	+15
スプレッド (A+B)	+16	▲ 21	▲ 33	+24	+18	▲ 65	▲ 51	+34	+56	+45

セグメント別 主なアクションプラン（2025年度）

セグメント	アクション
フィルム	<p>■ 包装用フィルムの収益性改善と工業用フィルムの更なる拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包装用フィルム：生産体制見直し、新ライン稼働率アップ、価格改定による収益性改善（黒字化） ・セラコン用離型フィルム：新機台の確実な立ち上げ ・液晶偏光子保護フィルム：増産体制の確立
ライフサイエンス	<p>■ 新ラインの確実な収益化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオ：生化学診断薬用原料酵素の拡販（増産効果） ・メディカル：人工腎臓用中空糸膜の一貫生産工場立ち上げ・収益化、プロセス膜事業化 ・医薬品製造受託：GMP体制維持。新規受注による収益性改善（黒字化）
環境・機能材	<p>■ 東洋紡エムシー（株）：経営基盤の強化から成長策実行へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンジニアリングプラスチック：海外需要の取り込み、製品価格の改定 ・環境ソリューション：BC膜*の販売拡大、VOC回収装置の新用途開拓 ・不織布マテリアル：国内生産体制の見直し（黒字化目途）
機能繊維・商事	<p>■ 収益改善と資産効率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エアバッグ用基布：収益改善のロードマップ実行 ・衣料繊維：資産効率の改善

* Brine Concentration

営業利益の主な増減要因（対前四半期比）

TOYOBO

（億円）

セグメント	24/3Q	24/4Q	増減	主な増減要因 (○○○)
フィルム	8	31	+23	(+) セラコン用離型フィルム：新機台立上げ費用（一過性）の減少 (+) 包装用フィルム：製品価格改定 (+) 工業用フィルム：販売増加
ライフサイエンス	6	5	▲1	(+) 生化学診断薬用原料酵素：新設備による数量増 (-) 生化学診断薬用原料酵素：生産性低下
環境・機能材	23	23	+1	(+) “バイロン”・“ハードレン”：海外向け需要回復 (-) VOC回収装置：販売減少（EV化減速影響）
機能繊維・商事	▲0	5	+5	(+) 衣料繊維：季節因

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

TOYOBO
Beyond Horizons